

平成 30 年 6 月 22 日現在

機関番号：32685

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02358

研究課題名(和文) 他者表象の変遷とその意味 オーストラリア文学の場合

研究課題名(英文) Representing the Other in Australian Literature

研究代表者

加藤 めぐみ (Kato, Megumi)

明星大学・人文学部・教授

研究者番号：30247168

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)： 研究はおおむね順調に遂行し、別項5に記載した成果として結実することができた。

研究結果としては、オーストラリアのマイノリティである先住民の表象について、文学が主流社会との和解のファシリテータになる可能性、現代オーストラリア文学にみられる難民の表象が社会問題を投影していること、また文壇マイノリティとしての女性作家が植民地オーストラリア社会とその文学に不足するメンターを他国や異文化に求めてオーストラリア文学の幅を広げ、「他者」を取り込みつつ作品を生んだことを提唱した。

この分析結果を3度の口頭発表で報告し、論文2本と共著で報告した。

研究成果の概要(英文)： This research project was successfully proceeded and implemented, coming to fruition in papers, oral presentations at national and international conferences, and a co-authored book.

It has been argued in these papers and presentations that literature on Australian indigenous peoples can facilitate reconciliation between such groups and the majority group; that while writings by mainstream writers on refugees and asylum seekers reflect social sentiment, which can sometimes be negative one, voices of such people in need can be heard through literature and letting others know their problems, thus inspiring public ethics; that some women writers have sought and found spiritual and guiding "mentors" from other cultures and societies than mainstream Australia, resulting in deconstructing Western mindset. These findings show the new dimensions of Australian literature as well as the positive roles of literature in society.

研究分野：英語圏文学

キーワード：オーストラリア文学 ポストコロニアル 他者表象 マイノリティ表象 先住民文学 難民文学 移民文学

1. 研究開始当初の背景

本研究は、代表者が長年行ってきたオーストラリア(以下適宜豪)文学全般の研究、及び「豪文学にみる他者としての日本人像研究」の上に立脚・発展するものである。

豪文学は英語圏文学の一部であるが、その植民地としての歴史、アジア・太平洋という地理的状况、移民による国家創成、先住民との軋轢など、英、米、カナダとは異なる背景を映し出してきた。その豪社会では、主流であるアングロ＝ケルティック系が19世紀からの白豪主義による均一性を頼りにして「他者」マイノリティを描く側にあり、両者の力関係を反映するものであった。

先の研究ではその白豪主義時代から20世紀の太平洋戦争を経て戦後の多文化主義に至るまで、日本人像は豪人作家の想像上の産物であり、社会的要請や政治的作為により創造され、仮想敵や現地妻のような「典型」となった過程を示した。すなわち、人種主義的イデオロギーや自国のアイデンティティ確立に他者表象が使われたことを、文学作品を分析することにより明らかにしたのである。

本研究はそこからさらに踏み込み、日本人という少数民族グループにとどまらず、先住民アボリジナルやマイノリティ移民や難民、社会的弱者の文学における表象を検証することにより、いかなる社会的要素や背景、力学がその文学における弱者像創造に影響するか、一方、ステレオタイプを打破する可能性はあるか、また他者表象と倫理観をどのように捉えるかを明らかにする試みであった。

先に述べたように、かつては弱者の表象は強者が行うものであり、社会的言説や文学には書き手と書かれる側との力関係がそのまま表れていた。さらにオーストラリアは他者を外部化し差別化を図ることによって、宗主国からの距離を心理的に克服し自らを植民地やがて連邦国家として確立する手段としてきた。その歴史の中で、先住民、外国人、その他の弱者といった声なき者については、ガヤトリ・スピヴァクが『サバルタンは語るができるか』で弱者サバルタンに関して述べているように、知識層もその像の創造に時には積極的に加担してきた。隠喩として用いられる病いが当事者を「個性化」しラベルを貼るとスーザン・ソントグが『隠喩としての病い エイズとその隠喩』で述べたように、民族や性、皮膚の色その他の差異が、弱者の個性としてステレオタイプ化され、主流言説の中で書き手にも読み手にも利用されてきた。

こういったマイノリティの表象については、すでに弱者の側からの研究も進められている。マオリ作家ウィティ・イヒマエラが *Where is Waari? : A History of the Maori through the Short Story* で指摘するように、

先住民とは「創り出された概念」でありその表象には時代的背景が関わってきた。だがポストコロニアリズム時代を迎え、ビル・アシクロフトらのポストコロニアル著作のタイトルにあるように、弱者が「書き返す」(The Empire Writes Back) ようになると、「自分たちを、自分たちの物語の中心に取戻し」始めた。だが一方で今度は、文学における表象の正統性や制限、弱者の側の検閲が問題になってきている。例としてオーストラリア政府機関であるアート・カウンシルでは先住民に関わる著述のためのプロトコルを掲げており、先住民文化や表現の仕方についての配慮を求めている。(Australian Council for the Arts, "Writing Cultures" 1st edition of Protocols for Producing Indigenous Australian Writing", the Australia Council for the Arts, 2002.

-----, "Protocols for Producing Indigenous Australian Writing" edited and revised 2007.)

こういった動きには、ともすると排他主義が生まれる可能性があり、他者表象が制限され困難になることも考えられる。本研究はこれらを踏まえ、19世紀後半から始まる豪文学にみるマイノリティ表象の変遷を辿ることにより、文学への植民地主義、人種主義、ジェンダー、政治・経済・外交・軍事関係、ボーダー主義の影響を考察するものである。これにより豪文学史の一面を明らかにすると共に、中心と周縁の関係、他者表象による表現とその可能性、そこに見る作家と文学作品の役割の一端も明らかになると考えられる。

2. 研究の目的

オーストラリアとその外部 この場合想定されるのは主流派對先住民、難民や移民、弱者等という構図 について、既存の関係をただ問うために文学作品を辿るのではなく、豪社会がこれまでいかにその「外部」を差異化してきたのか、その「動的プロセス自体を見出す」ことが必要である。このために本研究では先の日本人表象も含めた移民、難民出自の外国人、女性や児童、高齢者、障害者といった弱者、先住民の表象の変遷を辿り、その背後にあるものを明らかにすることを目的とし、フィクション・ノンフィクションの両者を分析対象とした。

これは範囲としては膨大なものであり、散漫になり兼ねないという危険性も考えられた。だが代表者はすでに1980年代より豪文学の研究、作品の翻訳と紹介を続けてきており、これまでの豪作品分析の蓄積がある。そこで本研究では、これまでに知り得ている一次資料を取捨選択し、さらに豪研究者や作家の意見を仰ぎつつ限定した資料、ことに21世紀に入ってから刊行された一次資料を多

く収集し分析した。それにより「背景」の最後で述べた目的 豪文学史の一側面を明らかにすること、中心と周縁の関係、他者表象による表現とその可能性、そこに見る作家と文学作品の役割を明らかにすることと共に、他者表象と倫理、ジュリア・クリステヴァが提唱する「主体性を失わずに他者と共存し他者を生きる」(『外国人 我らのうちなるもの』)可能性に繋げるための理論的裏付けを探ることを目的とした。

3 . 研究の方法

3 年の計画のうち、平成 27 - 28 年度はオーストラリアでマイノリティ表象に関わる一次・二次 文献資料の渉猟を行った。また滞在中は豪作家、研究者らと面談・研究打ち合わせを行い、資料選択について十分な情報を得た。また国内でもオーストラリアのマイノリティである日本人関連の資料を収集し、先行研究の研究者と面談、研究打ち合わせを行った。

得た資料の分析にあたって研究ノートを作成し、所属学会で口頭報告及び論文執筆を行った。平成 28 - 29 年度は資料分析を進め、さらに学会での口頭発表を行い、国内外双方での成果公開に繋げた。

分析対象とした書籍には下記のものを含む。(一次資料には、フィクションだけでなくマイノリティ作家に多く見られる創作的ノンフィクション:Creative nonfiction やライフ・ストーリー:Life story) も取り入れている。)

- ・ Altman and Hinkson eds. 2007. *Coercive Reconciliation: Stabilise, Normalise, Exit Aboriginal Australia*, North Carlton, Vic: Arena Publications.
- ・ Attwood, Bain. 2005. *Telling the Truth about Aboriginal History*, Crows Nest, NSW: Allen & Unwin.
- ・ Carter, David. 2013. *Always Almost Modern: Australian Print Cultures and Modernity*, North Melbourne: Australian Scholarly Publishing.
- ・ Davis, Mark. 2017. "The Cultural Mission in Indigenous Non-Fiction Book Publishing in Australia 1960-2000", *Journal of Australian Studies*, v.41 no.4.
- ・ Flanagan, Richard. 2013. *The Narrow Road to the Deep North*, North Sydney: Vintage.
- ・ Funder, Anna. 2011. *All That I Am*. Camberwell, Vic: Penguin Books. Hamilton, Walter. 2012.
- ・ Jones, Gail. 2007. North Sydney: Random House Australia.
- ・ ——— 2014. *The Guide to Berlin*. North Sydney: Vintage Books.
- ・ Johnson, Amanda. 2012. "Empathic Deterritorialisation: Re-Mapping the

Postcolonial Novel in Creative Writing Classrooms", *JASAL* v.12 no.1.

- ・ Langton, Marcia. 1993. *Well I Heard It on the Radio and I Saw It on the Television*, Australian Film Commission.
- ・ ———, 1998. "Marcia Langton Responds to Alexis Wright's breaking Taboos", *Australian Humanities Review*, Issue 12, December.
- ・ ———, 2012. *The Quiet Revolution: Indigenous People and the Resources Boom*, Boyer Lectures, ABC.
- ・ Miller, Alex. 2002. *Journey to the Stone Country*. Crows Nest, NSW: Allen & Unwin.
- ・ Nakashiba, Mary. 2010. *Beyond Borders: A Memoir*. Brisbane: Book Pal.
- ・ Piper, Christine. 2014. *After Darkness*. Crows Nest, NSW: Allen & Unwin.
- ・ Ryan and Wallace-Crabbe eds. 2004. *Imagining Australia: Literature and Culture in the New, New World*. Cambridge, Massachusetts: Harvard University Press.
- ・ Scott, Rosie and Kneally, Thomas eds. 2013. *A Country Too Far: Writings on Asylum Seekers*, Melbourne: Viking Imprint Penguin Books.
- ・ Stephenson, Peta. 2007. *The Outsiders Within*. Sydney: University of New South Wales Press.
- ・ Taylor, Cory. 2013. *My Beautiful Enemy*, Melbourne: Text Publishing.
- ・ Thomas, Jared. 2014 "Respecting Protocols for Representing Aboriginal Cultures", *JASAL* v.14, no.3.
- ・ Wright, Alexis. 1998. "Breaking Taboos", *Australian Humanities Review*, Issue 11, September.

4 . 研究成果

研究はおおむね順調に遂行し、成果として結実することができた。

H27 年度はシドニーのニューサウスウェールズ州立図書館を中心にマイノリティに関する 1 次・2 次資料を収集し、講読と分析にあたった。5 に示した通り、口頭発表を行った。「ポストコロニアル文学の社会的機能」の発表では、オーストラリアのマイノリティである先住民の表象について、文学が主流社会との和解のファシリテータになる可能性について考察した。これは招待論文として南半球評論 31 号に掲載している。本報告は『南半球評論』第 31 号に論文として掲載した。また関連書籍の書評 "A Guide to Berlin by Gail Jones" を『南半球評論』第 31 号 (pp81-83) に掲載した。

H28 年度はキャンベラで調査と研究打ち合わせを行った。そして 5 で挙げているように

国際学会で口頭発表を行い、現代オーストラリア文学にみられる難民の表象について分析を報告し、社会問題への文学のかかわり方について論じた。また5に示した通り、戦争の影響と文学における他者表象の論文を投稿し掲載された。

H29年度はことに難民表象に特化し、メルボルンとキャンベラでの調査を行った。また5に挙げたようにともにオーストラリア社会におけるマイノリティ民族である日本人と先住民の関わりと文学への表象について国際学会で発表した。さらに文壇マイノリティとしての女性作家が植民地オーストラリア社会とその文学に不足するメンターを他国や異文化に求めてオーストラリア文学の幅を広げ、「他者」を取り込みつつ作品を生んだことを歴史的にたどった論考を掲載した論文集を刊行した。

本研究期間は終了したが、今後も機会があるごとに、成果発表につなげていく予定である。すでにH30年6月に行われた第9回オーストラリア学会でのシンポジウム「1988年を振り返る：入植200周年以降の先住民・非先住民関係」で討論者として本研究の成果報告を行った。また関連するオーストラリア書籍 Hele Garner 著 *This House of Grief* (2014) と Ann-Mari Jordens 著 *Hope: Refugees and Their Supporters in Australia since 1947* (2012) を訳出中であり、H30年度に刊行を予定している。後者は2017-18年度オーストラリア政府出版助成金を授与されている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

1 KATO Megumi, “Testimony of War: Australian Memoirs and Fiction of the Pacific War”, *Life Writing*, 査読有, vol.14 no.4, 2017, PP475-484.

2 加藤めぐみ「ポストコロニアルの社会的機能：オーストラリア先住民アボリジナルと和解文学の場合」『南半球評論』招待論文 31号 2016年 PP13 - 22 .

〔学会発表〕(計3件)

1 KATO Megumi, “Connectivity in Literature: Australia-China-Japan”, Foundation for Australian Studies in China, 2017.

2 KATO Megumi, “Literature and Responsibility: Letting Voices of Asylum/Non-asylum Seekers be Heard in Contemporary Australian Literature”, International Australian Studies Association, 2016.

3 加藤めぐみ「ポストコロニアル文学の社会的機能：オーストラリア先住民アボリジナ

ルと和解文学の場合」オーストラリア・ニュージーランド文学会 2015年

〔図書〕(計1件)

1 (共著)三神和子編『オーストラリア・ニュージーランド文学論集』彩流社、2017年、PP53 - 74 .

6. 研究組織

(1)研究代表者

加藤 めぐみ (Kato Megumi)

明星大学・人文学部・教授

研究者番号：30247168